

下村脩博士の来訪

ウミホタル（節足動物）やオワンクラゲ（刺胞動物）などの発光生物の研究を進める中で緑色蛍光タンパク質（GFP）を発見された功績により、2008 年度のノーベル化学賞を受賞された下村脩先生（Woods Hole Marine Biological Laboratory and Boston University Medical School）ご夫妻が、2008 年 4 月上旬に帰国された際、淡路島岩屋にある神戸大学・内海域環境教育研究センター・マリンサイトにご来訪下さいました。

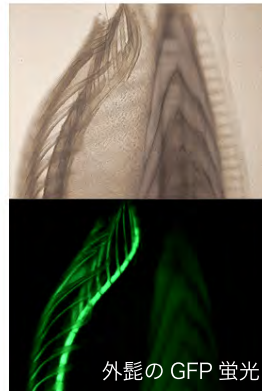
マリンサイト常駐の村上明男は、窪川かおる博士（東京大学海洋研究所）が発見したナメクジウオ（脊索動物）由来の GFP に関する共同研究をこの 10 年来進めており、その成果の一部を米国 Scripps 海洋研究所の研究グループとの共著論文として一昨年公表しています（Deheyn et al. *The Biological Bulletin*, 213:95-100, 2007）。この脊索動物における GFP の発見は、ノーベル財団の発表資料にも紹介されている GFP 研究についての WebSite (<http://www.conncoll.edu/ccacad/zimmer/GFP-ww/GFP-1.htm>) の Time line に掲載され、*Biophotonics International* 誌 2007 年 12 月号では” Keeping their heads out of the sand” のタイトルで見開きカラーで紹介されました。*



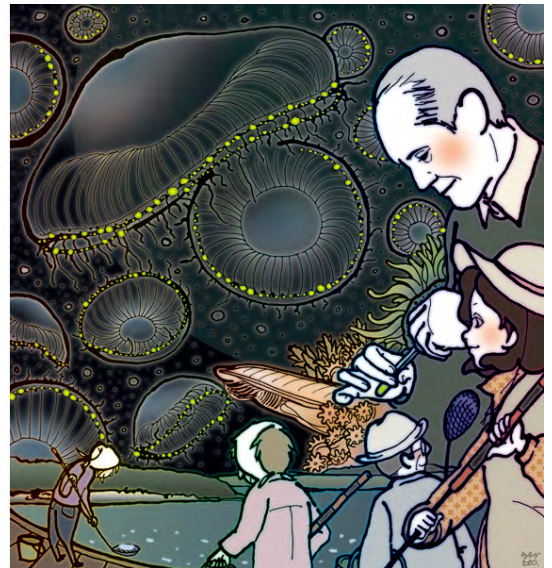
ナメクジウオ生体



マリンサイトでの下村先生ご夫妻（撮影：牛原康博）



外髭の GFP 蛍光



半世紀前のオワンクラゲ採集のイメージ（絵：内田博子）

下村先生来所日には、ヒガシナメクジウオ *Branchistoma belcheri* の生きた飼育個体を携えて窪川博士も駆けつけ、ナメクジウオ成体の外髭が鮮やかな緑色に輝く様子を下村先生にご覧頂くことが出来ました。下村先生からは我々の GFP 解析についてご指摘やご助言を頂くとともに、生物発光（蛍光）の研究についての様々な課題から海洋生物学の前線基地である臨海実験所のあり方に至るまで、多岐にわたる貴重なお話をお伺いすることができました。残念ながら淡路島の自然海岸をじっくりとご案内する時間はありませんでしたが、下村脩先生ご夫妻には初めて訪れた淡路島とその豊かな自然をご堪能頂けたものと思います。

今回の下村先生ご来訪のきっかけを与えて下さったのは、故中村英士博士（名古屋大学）でした。下村先生が生物発光研究の将来を託しておられた中村博士とのご縁がなければ、今回の機会も得られなかったでしょう。中村博士へこの場を借りて厚く感謝いたします。なお、マクロズーム蛍光顕微鏡を操作して頂いた湖内優氏にも御礼申し上げます。

*後継誌 *Biophotonics* 2009 年 1 月号では、“Nagasaki survivor wins Nobel Prize for GFP discovery” として下村脩先生のノーベル化学賞受賞を讃える記事が掲載されています。

参考：窪川・村上（2009）「ナメクジウオの緑色蛍光タンパク質」細胞工学 28:70-75.